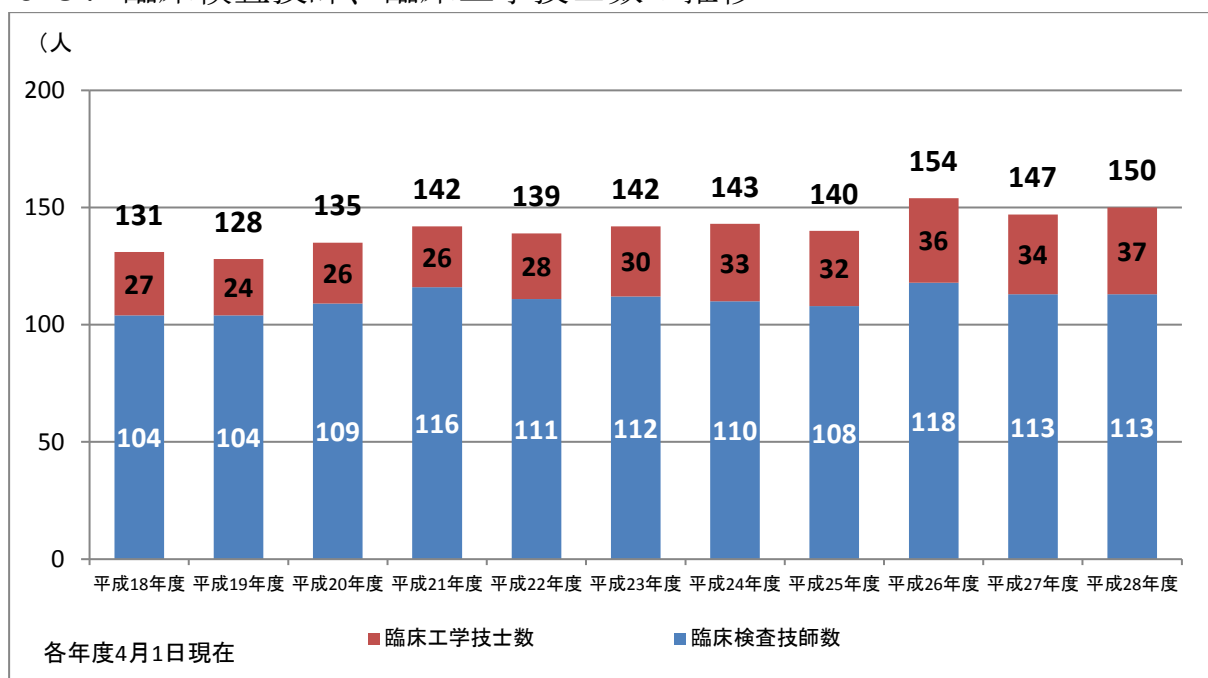


### 9 3. 臨床検査技師、臨床工学技士数の推移



医療現場におけるチーム医療の一員である臨床検査技師は、採血、血液分析検査、尿検査などをはじめ、微生物、遺伝子、輸血、病理などの多岐にわたる検体検査や心電図や脳波、肺機能、超音波などの生理検査などを主な業務とする。一方、臨床工学技士は、院内に設置される医療機器の保守管理をはじめ、血液浄化（透析）や手術室・集中治療室などで使用される生命維持管理装置などの操作を行うことを主な業務としている。

患者サービスの観点において多くのスタッフを配置することにより、検査領域では、検体検査の迅速性・分析精度の向上、結果報告時間の短縮、生理検査では、患者サービスの向上、検査待ち時間の短縮などが期待できる。また、工学領域においては、医療機器を中央管理し適正な点検を行うことにより医療安全の向上、適正な医療機器の使用の推進、機器運用を効率化することにより無駄な機器を排除し減少させるなど病院経営への関わりも大きい。

臨床検査技師数はここ数年大きな変化はないが、臨床工学技士数は手術件数の増加や、管理医療機器の増加により徐々に増加傾向にある。

データ提供 臨床検査部